

株式市場新聞

1 第371号

日経平均株価

3万3464円17銭

▼75円45銭(前日比)

TOPIX

2366.39

▲4.37(前日比)

www.marketpress.jp

2024

1/1

月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



2024年の注目テーマ

地方選やサミット、ドローンなど

2024年がスタートする。23年は経済活動がコロナ禍以前の状態に限りなく近い状態に戻る一方で、ロシアによるウクライナ侵略が世界の資源価格や穀物価格などに波及し、米国経済の過熱などからインフレ対策が欧米金融当局の利上げを加速させる結果になり、それと共に景気減速への懸念が一段と高まっている。このような混沌とした状況は年初も継続することになりそうだが、そのようななかで注目される新年のテーマを探ってみた。

景気は減速懸念が高まる

に行われる。



国内では安倍晋三氏の国葬を皮切りに銃撃事件以降、安倍一岸田首相の対応が批判され、内閣支持率が急低下した。そのような中で来年の統一地方選挙は、道府県と政令指定都市の首長と議員の選挙は4月9日に、それ以外の市区町村の首長と議員の選挙は4月23日

大統領選挙はトランプ氏復帰ある？

選挙に関しては衆参両院の選挙ほど関心はないものの、与党候補者の落選が相次げば岸田首相の責任論が高まる可能性もある。選挙が接近すればイムラ封筒(3955)やムサシ(7521)などの選挙関連が話題になろう。広島でG7サミット

24年もロシアとウクライナの動向が折に触れ話題になる。岸田首相は防衛予算の引き上げを名乗り、その動向をも含めて三菱重工(7011)などの防衛関連が折に触れ注目されよう。その後は5月19日から広島でG7サミット開催される。広島電鉄(9033)など広島の企業が話題になりそう。ドローンの普及が加速へ

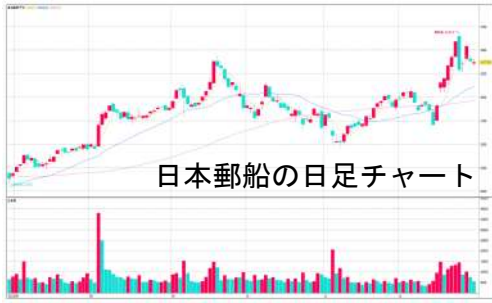
日経平均の日足チャート



が「一般の人がいる上空」を飛べるようになった。これを受けてドローン関連ビジネスが24年では急速に普及する可能性がある。日本郵便と日本郵政キャピタルとで物流専用ドローンを開発するACSL(6232)やドーン(2303)やイメージワン(2667)、産業用ドローン「FMCシリーズ」を展開する双葉電子工業(6986)などに注目したい。

海運が上昇率トップ

上海発コンテナ運賃急騰



日本郵船の日足チャート

週明け18日、日本郵船(910)が大幅高、東証上場3業種中、上海発コンテナ運賃が約6%上昇した。複数のコンテナ船会社が欧州向け航

路の値上げを発表したことが急騰の背景。また、フーシ派の攻撃が相次ぎデンマークのマースクが紅海運航を見合わせることを発表しており、コンテナ運賃は一段の上昇が予想されている。

オプティマスはS安

オプティマスグループ(9268)がストップ安。24年3月期の業績予想に

ついて、連結売上高で810億円から1250億円(前期比2.27倍)、営業利益で60億円から69億円(同2.3倍)、純利益で34億円から33億円(同42.7%増)へ修正した。AUTOPACT PTY LTDの連結子会社が寄与するものの、費用増による純利益での減益を嫌気した。

日製鉄買収負担を嫌気

日本製鉄(5401)が続落。米鉄鋼大手USスチールの買収を発表、1株55ドル、買収額は約2兆円と同社として過去最大級のM&Aとなり、買収金額の大きさが嫌気された。全米鉄鋼労働組合のマスコール国際会長が反対を表明しており、この先、紆余曲折も予想される。日本製鉄による完

全子会社化、TOBへの期待が後退し、山陽特殊製鋼(5481)も急反落した。

ショーケース売買契約

ショーケース(3909)がストップ高。ソフトバンク傘下のSB C&Sと売買契約を締結することで、企業と顧客をつなぐプラットフォーム「おもてなしSuite」

公開価格26%上回る

初値(5616)の太陽が東証グロウ市場に新規公開価格1044円を26.4%上回る1320円で初値をつけた。Ct

リニューアブル増額と優待

リニューアブル・ジャパン(9522)がストップ高。23年12月期の業績予想について、連結売上高で267億円から30億円(前期比86.3%増)、営業利益で33億円から35億円(同2.7倍)へ上方修正した。国内

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は3週連続伸。日経平均は前の週から295円上昇しています。年内最終週で材料難ながら、早期利下げ期待から米国株が最高値更新が続いたことがフォローになりました。週明けから4日続伸したあとは141円台まで進んだ円高納会まで27日には3昇し、一時値を上回ったが、大きく週年始の休には注意が必要。強まりから米国なく、新NIS期待されず。リスクオンの流れ加速も年明けも堅調な展開が5日発表の米12月雇用統計の内容次第ではリスクオンの流れが加速するでしょう。引き続き半導体関連と底入れから出直る中小型グロース株を狙う考えです。 花咲翁

公開価格の2.7倍

機関投資家への売却契約を結び、発電所売却収入が当初計画よりも上回る。同時に株主優待制度の新設も発表した。

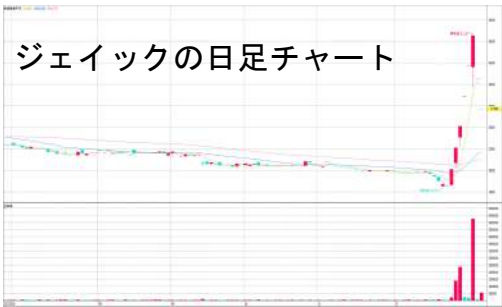
エスネットの初値 20日、前日に東証グロース市場に新規上場したエスネットワークス(5867)は公開価格730円に対して2.7倍となる1956円で初値が生まれた。同社は財務・会計分野を中心とした実務実行支援型コンサルティングサービスの提供を行う。



ジェイックがストップ高

システム・DX関連企業買収

20日、ジェイック(7073)がストップ高。AIやIoT技術を用いたシステム開発やDXを推進するエフィシエントの全株式を取得、子会社化すると発表した。取得価額は1億350万円。AI活用によるサービス品質と生産性向上、ITエンジニア領域の就職・採用支援サービスの強化などDXを推進することで、収益性向上や業務効率化を図れるとして



24年の年間運賃が上昇圧力がかかると発表。国際物流の混乱に伴い、ポットの運賃に加え、2024年の年間運賃が

川崎汽5連騰で新値

21日、川崎汽船(9107)が5連騰で年初来高値更新。イエメンの武装組織の派が商船への攻撃を繰り返して、船を襲撃していることから、出資するコンテナ船会社ONEが紅海の航行を停止すると発表。国際物流の混乱に伴い、ポットの運賃が

契約にも上昇圧力がかかると発表。国際物流の混乱に伴い、ポットの運賃が

かかる可能性が高く、日本郵船(9101)、商船三井(9104)にも買いが向かった。公開価格8%下回る

公開価格2.4%下回る
ロココの初値
ロココ(5868)が東証スタンダード市場に新規上場、公開価格1128円を2.4%下回る1100円で初値をつけた。ITアウトソー

公開価格8.3%下回る
ナイルの初値
ナイル(5618)が東証グロース市場に新規上場、公開価格1680円を8.3%下回る1540円で初値をつけた。自動車産業DX事業、ホリゾンタルDX事業を行う。

シング・BPOサービスとシステム開発・保守・導入支援などを行う。

+ 技術力

立花エレテックは電機・機械・電子・情報の「技術商社」です。

Internet of Things 機械間通信

IoT/M2M技術で製造業の生産性向上を支援!



当社のホームページはこちら



株式会社 立花エレテック

TACHIBANA ELETECH

東証プライム市場 (証券コード: 8159)
本社 / 〒550-8555 大阪市西区西本町1-13-25 TEL: 06-6539-8800
支社 / 東京・名古屋
支店 / 東関東・北関東・神奈川・三河・東海・北陸・三重・滋賀・南大阪・神戸・姫路・広島・四国・九州
海外 / 香港・シンガポール・台湾・上海・タイ・マレーシア
北京・深圳・武漢・大連・青島

事業内容 / FAシステム事業・半導体デバイス事業
施設事業・MS事業・海外事業



トヨタが大幅に下落

ダイハツ不正と米国でリコール

トヨタ自動車は21日、トヨタが大幅に下落した。ダイハツの子会社が不正行為を認め、ダイハツの不正行為が明らかになった。トヨタはダイハツの不正行為を認め、ダイハツの不正行為が明らかになった。トヨタはダイハツの不正行為を認め、ダイハツの不正行為が明らかになった。

トヨタ自動車は21日、トヨタが大幅に下落した。ダイハツの子会社が不正行為を認め、ダイハツの不正行為が明らかになった。トヨタはダイハツの不正行為を認め、ダイハツの不正行為が明らかになった。

トヨタは米国で約100万台のリコールも発表、業績への影響が懸念された。

AIメカテック大口受注

週末22日、AIメカテック(6227)がストップ高。海外の大手半導体関連メーカーから、ウエハハンドリングシステムを大口受注したと発表した。受注金額は約28億円。

大光は利益確定売り

大光(3160)が大幅反落。24年5月期の第2四半期累計決算は、連結営業利益で5億7400万円(同3.5倍)

三井海洋S高

大幅な上方修正

三井海洋(25日)が開発(269)がストップ高。22日の取引終了後、23年12月の業績

12月第5週の動意銘柄

業績予想について、連結売上収益で4487億4000万円から5166億円(前期比42.1%増)へ、営業利益で未定から258億3000万円(同2.58倍)へ大幅に上方修正した。浮体式石油生産

貯蔵積出設備(FPSO)の建造工事が想定以上に順調に進捗している。
公開価格8.1%下回る
ナルネットの初値
ナルネットコム
ニケーションズ(5870)が東証グロ

新規市場に新規上場、公開価格1040円を8.1%下回る956円で初値をつけた。オートリース企業(自動車関連企業)・個人ユーザーに対する車両管理やメンテナンス管理事業を行う。

海運大手APモラーの攻撃から船船を守る新たな多国籍部隊を発足を受け、紅海の運航再開に向けた準備を進めていると発表されたことを受け、混乱長期化に伴う過度なコンテナ船運賃の先高感が後退した。

早稲田学習研の初値
早稲田学習研究会(5869)が東証スタンダード市場に新規上場、公開価格970円を15.3%上回る1118円で初値をつけた。小中・高校生を対象に学習塾を経営する。

公開価格2.5%下回る
ヒューマンTの初値
ヒューマンテクノロジーズ(5621)が東証グロース市場

新規上場、公開価格1224円を2.5%下回る1194円で初値をつけた。勤怠管理サービスの提供。

川崎汽船(9107)、日本郵船(9101)、商船三井(9104)が大幅反落し、海運セクターが下落率トップ。デンマークの海運大手APモラーの攻撃から船船を守る新たな多国籍部隊を発足を受け、紅海の運航再開に向けた準備を進めていると発表されたことを受け、混乱長期化に伴う過度なコンテナ船運賃の先高感が後退した。

謹賀新年

新年明けましておめでとうございます。今年辰年。日本の株式市場の格言には「辰巳天井」というものがあります。辰年、巳年に株価はバブル化していく傾向にあるということ。

戦後の辰年相場を振り返ると、1952年は日経平均が前年比118.0%上昇、1964年は0.7%下落、1976年は14.5%上昇、1988年が39.8%上昇、2000年は27.1%下落、そして前回の2012年が22.9%上昇と4勝2敗で勝率66%です。

下落した1964年も年間高値までは11.7%上昇、ITバブル崩壊の2000年も年明けから4月まで上昇していき年間高値までは10.15%上昇する局面がありました。6回の年間高値までの平均上昇率は36.5%と非常に好調な辰年相場ですので今年も期待できる1年となりそうです。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。 日々勇太郎

転ばぬ先のテクニカル



わかもとストップ高

眼内レンズ医療機器申請

26日、わかもと製薬(4512)がストップ高。独VSY

バイオテックノロジー社から導入した多焦点眼内レンズを厚生労働省へ医療機器製造販売承認申請を行ったと発表した。最新の次世代型多焦点(3焦点)眼内レンズで、白内障手術後のQuality of Lifeの向上が期待される。

三陽商決算リスク回避

三陽商会(8011)が急落。27日の第3四半期決算発表を控えてリスク回避的な売りが嵩んだと思われる。24年2月期は通期連結営業利益で前期比38.6%増の31億円を予想。第2四半期累計(時点では7億1

800万円(前年同期3億1700万円の赤字)を計上しており、通期計画を達成する上では第3四半期は大幅な増益が必要との見方がある。

gumiはSBI株式取得

gumi(3903)がストップ高。SBIホールディングス(8473)が同社株式を取得すると発表。上限は300万株で議決権総数に対する比率は最大7.58%、取得期間は12月26日から24

SBG株式無償取得

27日、ソフトバンクグループ(9984)が大幅高。米通信大手Tモバイル株式約4880万株(約1兆1000億円相当)を無償で取得すると発表。財務負担軽減による戦略投資拡大に期待が高まった。レター

年3月29日まで。株価下支え効果に加え、SBIHD傘下で収益再建が期待された。

ホリイフード業績不安

ホリイフードサービス(3077)が急落。24年2月期第2四半期累計決算は9400万円の営業赤字と当初計画よりも赤字幅が拡大しており、年明けに発表予定の第3四半期

公開価格12%上回る

yutoriの初値 yutori(5892)が東証グロース市場に新規上場、公開価格2520円を12.3%上回る2829円で初値をつけた。衣料品、雑貨などの企画と小売・卸売事業を行う。

デリバティブで重要な役割

J P X

23年の大阪取引所大納会

企業レター



2023年の大阪取引所の大納会が12月29日の15時30分から行われた。大阪取引所の横山隆介社長は「真は日経平均が33年ぶりに高値を更新したことで株式市場が活況を呈してきたとし、大阪取引所では日本取引所グループ(8697)

の大阪本設が設置されたこと、日経225マイクログ先

物、日経225オプションミニなどの新商品の取引がスタートしたことなどを振り返り、経済全般でもデフレ脱却を道筋が見えたことから2024年も期待が持てる年になると期待を込め、デリバティブ取引で重要な役割を果たしていくと意欲を見せた。そのあと関西で今年新規上場した企業が紹介され、その代表として南海化学(4040)の菅野秀夫社長とトライント(9164)の笹井英孝社長により打鐘が行われ、その後、日本証券業協会大阪地区協会の異大介会長により万歳三唱で締めくくられた。

FフォースGは想定内

28日、フィードフォースグループ(7068)が3日ぶりに大幅反落。24年5月期第2四半期累計決算は、連結営業利益で従来予想の5億6900万円に対して6億4700万円(前期比60.9%増)と計画超で着地したが想定内として利益確定売りに押された。同時に自己株式取得枠の設定を

発表した。反応は限られた。上限39万株(発行済株式総数に対する割合1.5%)または3億円。

インタラク大口受注

インタラクティブ(7725)が大幅に3日続伸。イメージセンサ検査関連製品での大口受注を発表した。受注金額は15億8000万円。

大底圏の住友化を推奨

クリスマス休暇明けは半導体を筆頭に主力株が買われたので、1ドル141円台までの円高から大納会へ向けては失速しました。

さして、年明けからは新NISAがスタートします。しかし、筆者は長期で保有する目的を考えると業績の懸念などで高配当を維持するのが難しくなる可能性もあり、積極的に勧めたいとは思いません。業績悪で大幅に下落している主力銘柄をお勧めしていません。その代表が住友化学(4005)です。株価が330円台と330円台というのは究極の底値圏といえます。来期以降業績の回復が見込めると考えられます。株価は大きく上昇し、2倍程度の上昇を来年は見込めると思

高野恭壽の株式情報 これでどや!!



株式市場新聞の名物コーナーが復活!

は見込めると思

調と見ます。

新NISAには懐疑的

新NISAで業績の拡大が見込めるのが大手証券会社とみて、筆者は一貫して野村ホールディングス(8604)を勧めています。年内は薄商いのために見送られました。年明けには期待通り上昇が見込めるでしょう。そのほかでは株価対策を積極的に断行した双日(2768)が調整を続けていましたが、そろそろ反発する可能性が高いとみています。また、水素の見直しで岩谷産業(8088)を引き続き注目。日産自動車(7201)も十二分に調整し続けており、そろそろ反発が期待されます。基本的に新年の相場も押し目を入れながら、上昇基調となると見

高野恭壽(たかのやすひさ)氏 株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。公式ホームページ

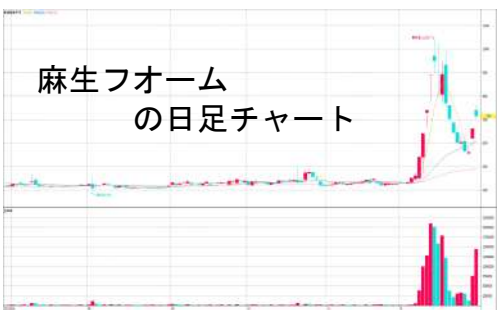
<https://marketpress.jp/kabu-takano/>

麻生フォームS高

信用規制解除と麻生氏存在感

28日、麻生フォームクリート(1730)がストップ高。東京証券取引所が信用取引による新規の売り付けと買い付けに係る委託保証金率を50%以上(うち現金20%以上)とする臨時措置をこの日売買分から解除すると発表したことか

金徴収措置を解除。一連の安倍派の不祥事で麻生太郎氏の存在感が高まっていることも買い戻しを誘った。



ら負担軽減による買戻しの動き。日本証券金融も貸借取引自己取引分と非清算参加者ごとの清算取引分

岡山紙一時S高最高値

大納会29日、岡山製紙(3892)が一時ストップ高まで買われ、上場来高値を更新。24年5月期の業績予想について、営業利益で7億2000万円から15億円(前期比2.4倍)へ大幅に上方修正した。前期に実施した製品価格改定の効果がでている。

任天堂スイッチ後継機(思惑)が大幅続伸、株式分割を考慮した実質最高値を更新した。米長期金利の低下を背景にした世界的なグロース株物色の流れのなか「ニンテンドースイッチ」後継機が24年にも発売されるの思惑から個人投資家中心の資金を集めた。

クスリのアオキ減額

クスリのアオキホールディングス(3549)が大幅続落。同社は27日の取引終了後、24年5月期の業績予想の修正を発表、連結売上高で4100億円から

24年春新製品で需要喚起

銘柄探究



男梅ふりかけ

味加現るわのべたことし独自の風味が詰まった「粒々梅」を
しよっば、これに実がふりかけ、食したことで、食した時に梅の風味がふわっと広がることを実感。これに加えて、美しさと

人気キャラパッケージも



だしスープ洋風
から「だしスープ 和風」
「洋風」ムーミンデザイン
パッケージにして、20
歳〜40歳代の女性タゲ
ートとして拡販していく。

の歴史的な不作で原料海苔の高騰という危機にも見舞われてきた。このような中で同社では価格改定や効率的な生産活動などに取り組み利益の確保に務めており、今24年9月期は連結営業利益で前期比10・7%増の4億1500万円と2ケタ増益を見込む。「もう一度、売り上

ノーベル製菓とのコラボシリーズ「男梅ふりかけ」は2017年の発売以来、順調に売り上げを伸ばしており、今回が初のリニューアルとなる。今回、梅の風味が詰まった「粒々梅」を独自に開発し配合したこと、食した時に梅の風味がふわっと広がることを実感。これに加えて、美しさと

「だしスープ 和風・洋風」はオフィスや在宅勤務でコーヒーや紅茶以外にリラククスできるマダカップで飲める飲み物として人気を集めている。北欧・フィンランド生まれの人気キャラクター、ムーミンのほっこりとしたイメージの親和性が高いことから「だしスープ 和風・洋風」ムーミンデザインパッケージにして、20歳〜40歳代の女性ターゲットとして拡販していく。

「男梅ふりかけ」初リニューアル

大森屋（2917）はこの数年、固定概念を覆す新たなチャレンジをしており、2024年春に発売する新製品では人気コラボ商品のリニューアルや大人気の新商品に加えて人気キャラクターのパッケージで若い女性層の需要を喚起していく。

製品での唯一の上場企業として、高いブランド力を誇る。食品業界は原料高や光熱費、物流費などあらゆるコストが増加しているが、これらに加えて有明海で

24年2月13日から全国で発売するのが「男梅ふりかけ」のリニューアル品と「バリバリ職人 韓国うま塩味」、「だしスープ 和風・洋風」ムーミンデザインパッケージだ。

「だしスープ 和風・洋風」が効いたゴマ風味を再現し、シリーズ初のスタンドパウチタイプを採用している。製法を採用、韓国のりの「塩味」は2018年2月に発売開始以来、年々売り上げを伸ばし、累計で60億を超える売り上げを達成した大人気シリーズの第8弾商品。特殊な調味液を使用し通常よりじっくり時間をかけて乾燥させることで海苔の新鮮感を実現した「新食感ウエーブ

大森屋 (2917)



稲野達郎社長

同社は加工のり、24年2月13日から全国で発売するのが「男梅ふりかけ」のリニューアル品と「バリバリ職人 韓国うま塩味」、「だしスープ 和風・洋風」ムーミンデザインパッケージだ。

「バリバリ職人 韓国うま塩味」は2018年2月に発売開始以来、年々売り上げを伸ばし、累計で60億を超える売り上げを達成した大人気シリーズの第8弾商品。特殊な調味液を使用し通常よりじっくり時間をかけて乾燥させることで海苔の新鮮感を実現した「新食感ウエーブ



プラットフォーム目指す

eWeLL
中野剛人社長に聞く



iBowで在宅医療改革

と終末期を
事業領域に
している。

eWeLL(5038)は独自開発の訪問看護専用電子カルテ「iBow」を中心に在宅療養の核となる訪問看護ステーションに向けて業務支援システムとBPOサービスを提供している。株価は2022年9月に東証グロース市場に新規上場、3910円の初値形成後に今年6月に5730円の上場来高値を更新したのちに調整していたが、株価は再び上昇基調に転じている。同社の成長性を考慮すれば株価は再び最高値に挑戦する実力がありそうだ。中野剛人社長に現況と今後の展望を聞いた。

在宅医療の重要性は年々高まっていくが、御社の事業特性は？

医療は健診・予防と病院主体で治療する急性期医療、長期的かつ継続的に治療する慢性期医療と終末期医療の4つに分類されるが、その中で在宅で治療を行う慢性期

治療業務も全国で支援

在宅医療は国策だが……。国策により訪問看護は今後増えていくことになるが、現場では書類作成が手書きで行われるケースが多くIT化が遅れている。訪問看護ステーション向けに開発した業務支援システム「iBow」は電子カルテシステムをクラウドベースで提供しており、利用者はPC、タブレットなどで利用者管理はもとより服薬管理や医療・介護保険算定などが簡易な操作でできることが特徴だ。

「iBow」導入により訪問看護ステーションではどのような変化が起きたか？

業務効率化により1日当たりの訪問件数が従来の3件から6件に増え、看護師一人あたりの売り上げアップにつながった。これまで一般的だったID課金ではなく1訪問あたり100円で提供しており、利用しやすい料金体系も評価されている。

今後の戦略は？

在宅医療のプラットフォームを目指す。製薬会社や治療会社向けの新サービスとして、在宅治療業務を全国規模で支援する「iBow治療システム」も提供しており、在宅での様々な可能性を追究していく。

購読会員募集中！！



デイトレ候補銘柄毎日配信！！



株式市場新聞

www.marketpress.jp

星野三太郎の 株街往来

～証券コードの英字採用～

202

2024年4月から実施された東証による新市場への移行は1年以上経過してすつかり定着したが、恐らく個人投資家、上場企業両者にとつて違和感が強くなるのが2024年1月から導入される証券コードの英字採用だろう。

個人投資家の中にはコード番号を聞いただけで企業名を思い浮かべる方は少なくないだろう。例えば、任天堂は7974だが、筆者は、株価が下落した時に「任天堂、泣くなよ! (7974)」つてな感じで覚えただけで企業名を思い浮かべたものだった。これが新年1月以降に上場する企業には例えば「130A」など英文字が入ることになる。

新規上場が増えていく度に、いつかは証券コードが足りなくなるのではと懸念していたが、その答えが英文字入りという事になった。取引所としては苦肉の策なんだろうが、個人的には違和感が半端では無く、システムトラブルへの懸念も抱く。筆者が新規公開する企業の社長だったら、既存の上場企業と差別されているような気分になるのだが、それも数年したら慣れるだろうか。



企業レター

「初売り」チランを開催

しまむら

特別価格で福袋やノベルティ贈呈も



しまむら(8227)はグループ各店舗で「初売り」チランを開催する。ファッションセンターしまむらの初売りに来店した顧客のうち、アプリ会員証をご提示のうえ、店舗で

税込5000円以上購入すると先着30点限定でノベルティ(ファッションセンターしまむら店舗置き時計)をプレゼント。

ヤングカジュアルのイメージでは、お得なハッピーバッグを初売り特別価格で用意しており、レディース・メンズともにひとつのハッピーバッグでアウターからパンツまで揃い、今すぐ着用できる。コーデイネットが完成する。ベビー・子供用品のバースデイでは、オリジナルブランドやキャラクターなどの福袋を用意するなど初売りにふさわしい品揃えとなっている。

ハリマ化成G

加古川製造所のミルセン製品

コーシヤ・ハラル認証

ハリマ化成グループ(4410)は加古川製造所(兵庫県加古川市)で製造しているミルセンブランド製品について、ユダヤ教の戒律に準じた方法でつくられたことを示す「コーシヤ認証」を世界最大級のコーシヤ認証団体のKLB Dから7月に取得するとともに、イスラーム法に則って生産、提供されたことを示す「ハラル認証」を拓殖大学イスラーム研究所の判定のもと宗教法人日本ムスリム協会から10月に

取得した。ミルセンは天然資源の「松」から得られるテレピン油の成分「ピネン」を出発原料として製造されるもので、主にアロマオイルや香料の原料に利用されている。コーシヤ認証ハラル認証は食品などの最終製品だけでなく、原材料や製造過程まで厳しくチェックされるため、原料供給会社にも製造会社と同様の厳格な対応が求められる。同社では国内初のミルセン製造設備を4月に完工、操業しているが、多様な市場ニーズに応えるため、グローバル基準に対応した原料供給を目指した取り組みを加速する。

潮流

「年始ラリー」に期待

終値で昨年来高値を上回るか!?

marKet/bAnk



維持を決めた。

金融市場ではマイナス金利政策の早期解除観測が浮上していたが、日銀は見送った。長短金利操作（イールドカーブ・コントロール、YCC）についても、長期金利の上限のめどを1%とする現在の運用の継続を決めた。金融政策の先行き指針（フォワードガイダンス）も変えなかった。植田総裁は会見で「チャレンジング」発言の趣旨について「今後の仕事の取り組み姿勢について、一段と気を引き締めるというつもり」のものだったと釈明した。来年1月に金融緩和政策を見直すことはないだろうとも述べた。

外国為替市場では円安・ドル高が進み、1ドル＝144円95銭と前日から2円以上下落した。植田総裁が12月7日の国会での「チャレンジング」発言で急速な円高・株安が進んだが、植田総裁の金融緩和政策スタンスに変化がないと分かるとマクロ系ヘッジファンドが株価指数先物に買い戻しを入れ、株価を大きく押し上げた。植田総裁がチャレンジング発言をする前の12月6日の日経平均は3万3445円であったが、8日には3万2205円と2日間で1240円も下げた。一方、19日の日銀政策決定

日銀は昨年12月19日の金融政策決定会合で、大規模な金融緩和策の現状

時、3万3824円を付け、年初来高値を更新した。

ただ、外為市場でドル円の動きを見るとチャレンジング発言前のドル円レートは1ドル＝147円であったが、そこまで戻りきれしていない。これは、低金利

の円を借り外貨に投資する「円キャリー取引」が後退しているからだ。11月中旬まで日米の金利差収入を狙った「円キャリー取引」が活発化して円売りを促した。市場の米利下げ見通しや日銀の政策修正時期は完全には定まっていない。円キャリー取引のやりにくさは続くとみられる。円売りを支えていた円キャリー取引が解消されれば、急速な円高圧力となることには警戒が必要だ。

日経平均はこれまで昨年7月3日の終値ベースでの年初来高値である3万3753円近辺で何度も跳ね返されてきたが、終値で昨年来高値を上回れば、昨年前半のような上昇相場の第2弾が始まる可能性がある。日本の年始ラリーに期待したい。

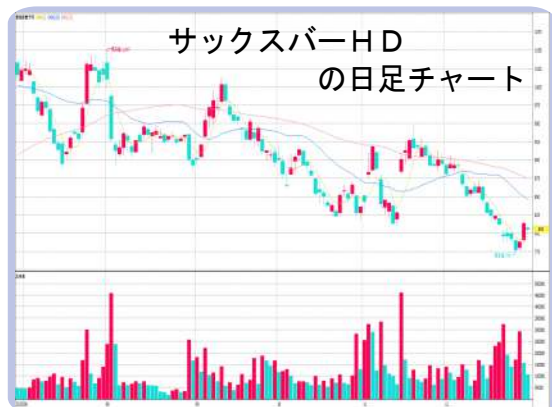
潮流銘柄はサクスバーホールディングス（9990）、フィックスターズ（3687）、TWO STONE & Sons（7352）。

にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2022年1月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。<http://marketbank.jp>



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年

急速な円高圧力には警戒





敬腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。



東証も「PBR1倍割れ 企業の是正」に取り組む

先週の日経平均は前週末比約295円高と3週連続陽線となった。「掉尾の一振」で年末高値引けの期待も大きかったが「円高」で高値引けとはならなかった。年間を通してみると日経平均の上昇幅は736

9円となり上昇率は28.2%となった。この上昇率は1990年以降でみると2013年(56%)、2005年(40%)、1999年(37%)以来の年間上昇率となる。大幅上昇した要因は米国内場が強かった影響もあるが、日本の変化が顕著に表れてき

「変化する日本」を再評価 卯年跳ねた、辰年「天井」か？

たことが大きかった。約30年、デフレ脱却が出来なかったがコロナ社会からの解放からは物価の上昇が鮮明になってきた。まだ十分とは程遠いが労働賃金もじわり上昇、経済が大きく回復し始めた。東証も「PBR1倍割れ企業の是正」に取り組むなど上場企業に企業努力を迫ったことも評価されよう。

この流れで「辰年」も更なる上昇を期待したいところである。「卯年」である前年は相場の格言通り「跳ね」た。「辰年」の相場の格言は翌年の巳年と合わせて「天井」である。

日経225先物日足チャート



NYダウの日足チャート



しかし、「辰年」はアノマリ的にみると十二支の中で一番上昇率の高い干支である。1949年から2023年までのデータでみると「辰年」の年間上昇率は27.7%である。

今年も「辰年」の年間平均上昇率で上昇すると約4200円になる。2年連続の約28%の上昇はなかなか難しいと思われるが「天井」に向けて上昇期待が高まる年である。

製造業における日本ブランドの信用低下、不安定な内閣、超金融緩和の方針変更の可能性など懸念材料は多いが「変化する日本」の再評価を期待したい年である。(ハチロク)

観測が高まり、これを
受けてニューヨーク市
場は最高値にまで買
われているが、ドル
を売っている動きが
円買いの動きが国内
でいた。一方、国内
は先の日銀会合で植
田総裁は早期の金融
緩和を示したが、年
明けの年明けの解
示した年明けの解
縮小は否定的な見
で、年明けの解
トイールドカブコ
が高まるおりにな
がるおりになると
がるおりになると

円高も新NISAに期待

2月期3Q発表佳境を迎える

先週の東京市場は27日
までは4日続
伸となったが、
その後は1ド
ル141円ま
で円高が進ん
だことを受け
て、膠着感の強
い動きになっ
た。米連邦準
備理事会（F
RB）が早
れば来年3月
にも利下げに
踏み切るとの

測の結果、米株高を支援すること
の緩やかに上昇する予想通り
の伸びが鈍化し、失業率が活発化す
るかも
計の発表がある。雇用者数の買いが
計、5日に米12月雇用統計に絡んで好決算銘柄には個
日に12月米ADP雇用統計（8）など。新NISA導入
ISM製造業景況指数、4
海外では3日に米12月
先物売りとなる可能性があ
るかもしれない。

エルシアホールディングス
（3141）やインドシー
ホールディングス（800
）など。新NISA導入
の発表が佳境を迎える。5日は
ダイセキ（9793）、ダ
イセキ環境ソリューション
（1712）、アオキスーパ
ー（9977）。9日はウ
エルシアホールディングス
（3141）やインドシー
ホールディングス（800
）など。新NISA導入

相場見通し

記者の視点

年明けは1日から新N
ISAが導入され、新規
ISAが導入されるコード
番号が英文字入りとなる。
4日は大発会だが、その
前3日から先物の売買は
開始される。市場参加者
が少ないなかで仕掛けの
動きから円高が更に進む
可能性もあり、円高から
先物売りとなる可能性が
あるかもしれない。



当面のスケジュール

- 31日 中国12月コンポジットPMI、中国12月製造業PMI、中国12月非製造業PMI
- 1日 新NISA導入(1月から)
新規上場企業に付与する証券コードが英字入りに(1月から)
中国12月Caixin 製造業PMI
- 3日 米12月ISM製造業景況指数、米11月JOLTS求人件数
12月12・13日開催のFOMC議事録
- 4日 大発会
米12月ADP雇用統計
- 5日 12月マネタリーベース
12月消費動向調査
米12月雇用統計
米12月ISM非製造業景況指数
- 9日 12月東京都区部消費者物価
11月家計調査
米11月貿易収支
- 11日 11月景気動向指数
JAXAと三菱重工は情報収集衛星を搭載した大型ロケット「H2A」打ち上げ
米12月消費者物価
- 12日 12月景気ウォッチャー調査
オプションSQ
- 13日 台湾総統選挙実施
- 15日 12月マネーストック
中国MLF(中期貸出制度)金利
アイオワ州で最初の米大統領選挙の予備選挙
- 17日 米12月鉱工業生産・設備稼働率
- 19日 12月消費者物価
11月第三次産業活動指数

23年の東京市場は前半
大幅上昇、後半伸び悩んだ。
理由ははっきりしている。
前半は異次元緩和によりデ
フレ脱却の兆しが見えたこ
とが買い手掛かりだったが、
後半は緩和解除への警戒感
が上値の買いを手控えさせ
た。日経平均は年始から7
月まで3割以上の上昇にな
ったが、その高値水準が上
値の壁になっていて、
24年相場は異次元緩和
解除をどう乗り切るかが最
大のポイントだが、30年
来の脱却できなかったデフレ
の脱却であり、ショック
安がなければ絶対の拾い場
なるのだろう。

編集後記

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的正確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。